

お客様に選ばれる『安心空間』をつくりませんか？

データに基づいた 新型コロナウイルス COVID-19 感染症対策

ホテル客室 / 日常編

客室の新型コロナウイルス感染症への安全対策、アルコール消毒だけで本当に万全でしょうか？
宿泊客はそれだけの対策だけでは不安を抱えています。

客室の空気を含めた空間の安全性は大丈夫か？ 作業のモレ、ムラが無いかな？

目に見えないウイルスへの恐怖・不安を
データに基づいた感染症対策で解決します。

①データに基づいた リスクの「見える化」



- ① ドアノブ
- ② スイッチ
- ③ イスの引手部
- ④ TVのリモコン
- ⑤ 枕回り
- ⑥ 便座
- ⑦ トイレのレバー
- ⑧ ユニットバスの床
- ⑨ エアコン吹き出し口

『ダイヤモンドプリンセス号環境検査』
のデータに基づき
リスクの可能性のある場所の特定

②データに基づいた 最適な機材・薬剤の 選定と運用方法

厚生労働省

国立感染症研究所

WHO
世界保健機関

NITE
独立行政法人製品評価技術基盤機構

CDC
米国疾病予防管理センター

リスクの可能性のある場所に対して
合理的かつ最適な方法により
リスクマネジメント

リスクの最小化

リスクのリストアップ

カイコーポレーションが推奨する“信頼を勝ち得る感染症対策”

STEP.01

オゾン+プラズマ生成機を用いて、作業前に空間洗浄

目的

- 作業前に空間洗浄をし、作業員へのウイルス感染リスクを抑える
- 作業員の手抜きや技術不足によって生じるムラ・モレ・バラツキによる人的ミスからの感染リスクの軽減

データ

奈良県立医科大学による
新型コロナウイルス不活化を確認

厚労省PMDAによる医療機器認証の実証実験値であるCT値60*にて、新型コロナウイルスを不活化できることが学術的に確認されました。

*CT値とはウイルス不活化(除菌)を示す指標です

参考文献: 奈良県立医科大学、MBTコンソーシアムの研究グループによるプレスリリース

効果

付着面は大容量オゾンで不活化(CT値60)
空間に浮遊しているウイルスは
オゾンでは接触効率が悪いのでプラズマで直接電気分解

付着面の物質
+
空間浮遊物質
(3D)



無声放電方式

STEP.02

感染リスクの高い箇所を最適な薬剤と方法で除菌

目的

- 感染リスクの高い箇所を適切な薬剤と方法でリスクヘッジ

データ

ダイヤモンドプリンセス号環境検査に関する報告

集団感染が起きた、豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス」における新型コロナウイルスの環境汚染調査報告によると、感染した人が滞在した部屋では、浴室内トイレの床(39%)、枕(34%)、電話機(24%)、机(24%)、TVリモコン(21%)などでウイルスの検出率が高く、感染した人の顔に近い部分やよく手が触れる箇所は汚染されやすいことが判明しました。

参考文献: ダイヤモンドプリンセス号環境検査に関する報告(要旨)、国立感染症研究所

運用

リストアップしたところを
最適な薬剤で除菌

次亜塩素酸ナトリウム

アルコール

加速化過酸化水素



STEP.03

空間フローラの形成、新たなウイルスの侵入・増殖を予防

目的

- ここまでの作業で人体に影響のない善玉菌も減少し病原菌やウイルスが侵入・増殖しやすい新たなリスクを孕んでいるため、空間を善玉菌で満たし新たな悪玉菌の侵入・増殖を予防する

データ

バチルス(善玉菌)の抗インフルエンザの効果を発見

バチルス(善玉菌)は6つのポリペプチド(アミノ酸よりも大きくタンパク質よりも大きい物質)を生成し、それぞれインフルエンザやHIVウイルスなどに対する抗体や効力のある抗体、免疫グロブリンなどを生成します。

参考文献: バチルス(善玉菌)プロバイオティクス菌株の抗インフルエンザ作用(2017)

効果

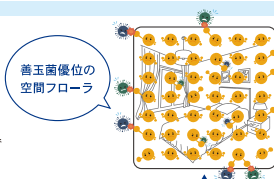
枕、寝具、ソファ、カーテン、エアコン吹き出し口など
薬剤では出来ないところを
バイオのチカラ*でリスクヘッジ

*自然界には、自然治癒力があります。それを担っているのが、汚れの浄化機能を持つ微生物“プロバイオティクス(善玉菌)”です。



空間フローラ*を整えて
病気になりにくい
環境づくりをサポート

*「口内フローラ」や「腸内フローラ」と同じく考えて
空間にもフローラがあります。



善玉菌が動きを抑制し寄り付かない環境
健康的快適な空間

STEP.01~03を組み合わせた『ハイブリッドトリートメント』で
お客様に選ばれる『安心・安全の空間』に